ぼうさいあいち

会報２２号（新年号）

発行日　令和２年　１月　１日

特定非営利活動法人
愛知県防災士会

# 新年のごあいさつ

NPO 法人
愛知県防災士会
理事長　寺　島　一　徳

新年を迎え皆様には、ご家族お揃いで、うららかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、４月３０日に「平成」の幕を閉じ、５月１日に「令和」の扉が開きました。

平成の大災害は、平成２年の「雲仙普賢岳噴火」から始まり、「阪神淡路大震災・新潟中越地震・東日本大震災」等の地震災害、「局地的集中豪雨・大型台風被害」等の水害が多く発生しました。
特に風水害に関して、「避難勧告等に関するガイドライン」が平成３１年３月に改定され、住民は「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとるとの方針が示され、５段階の警戒レベルを明記して、防災情報が提供されることになりました。

令和元年の昨年は、伊勢湾台風発生６０年を迎え、風水害発生の減少を思っていたところ、多くの台風が発生し、気象庁より警戒レベルの防災情報が提供されました。
その中でも台風１５号・１９号の被害は大きく、関東地方・信越地方・東北地方に大きな風水害をもたらせました。
「油断大敵」という四字熟語がありますが、「信濃川・千曲川等」の流域での水災害は甚大で、過去数十年発生が無く、少し油断があって避難が遅れたのか、警鐘を鳴らした事案でもありました。
今後も地球温暖化が言われる中、大型台風の発生により、風水害は減少しないと思います。国等による災害対策はもとより、「油断」すること無く、「自分の身は自分で守る」を今一度、考えることが大切になると思います。

愛知県防災士会は、少しでも多くの地域の方に、災害時の防災意識を高める啓蒙活動を続けて行きたいと思います。
今年も皆様と共に進んでまいりますのでご支援・ご協力をお願いします。

# ・・更なる飛躍の年でありますように・・

NPO 法人
日本防災士会　参与
愛知県防災士会　理事
常任顧問　保 坂 松 男

平成 31 年そして令和元年は、様々な出来事の中を過ぎて行きました。

今年は、特に大型の台風が発生するなど、異常気象による災害に見舞われ、日本列島を次々と襲い、各地に被害が発生しました。

ことに 10 月に入り、実りの秋を迎える中で、予測不能な大雨により風水害が発生し、河川の氾濫による堤防破壊は、特に東日本を中心とした地域に大きな被害の傷跡を残して去りました。

地球温暖化が元凶と言われる中で、今後の大きな課題として、その対応の遅れを懸念するところであります。

国内においては、新しい門出の中で晴れやかな即位の礼を挟み、史上初の 10 連休となり日本列島が休眠状態となりました。

内に向けては愛知県防災士会は、設立 13 年目を迎えることが出来ましたことは、会員皆様の努力によるものであります。

今年は、次世代を担う人材の育成を主眼とし、一昨年 12 月に防災アドバイザー制度の検討に入り、その後、検討を重ね 4 月に制度が発足、その後、会報により主旨の開示と応募を行い、12 月に応募された 7 名の方により、プレゼンを行い各自のそれぞれにモチベーションを発表していただきました。

今後の活躍を期待し、これからも広く会員の中の隠された人材の発掘と育成に努め、会の基盤となる防災意識の高揚の底上げを図って行かなければなりません。

会が主催する研修会等に多くの会員が参加しやすいように、今までの年次計画の在り方を回顧し、年度当初に計画を開示するよう努め、幅広い視野による研修会（防災アドバイザーを含め）及び外部研修に参加出来るよう努めて行かなければならないと考えます。

防災の啓発における主々のアイテムは、日々、変遷している中で、知識の研鑽に努め、地域に期待される集団として、前に進んで行かなければなりません。

新たな年が飛躍の年でありますよう、ご祈念申し上げます。

## １．愛知県防災士会の活動（２０１９年１０月～１２月末）

### 地震から自身を守るために

### ―　巨大地震にどう備えるか　―

日　　時：令和元年１０月１９日（土）　１０：００～１１：３０
場　　所：愛知県阿久比町勤労福祉センター
主　　催：阿久比町役場　総務部　交通防災課
イベント名：阿久比町・東浦町　防災リーダー及び災害ボランティアコーディネーター養成講座（第１回目）
参　加　者：７０人
講　　師：NPO 法人　愛知県防災士会　防災士

**櫻井　衞**　（副理事長・兼　企画委員長）

ファシリテーター:阿部

阿久比町勤労福祉センターで開催されました出前講座は、上記イベント名のとおり第１回目の養成講座の一翼を担う形で、櫻井講師より「防災の基本講話」を約９０分説明しまた。

開講に伴い私たちは、冒頭の開講式から参加させて頂き、開講挨拶に始まり、「防災ボランティアあぐい」に続き「東浦町の防災対策」につきまして、それぞれの代表の方からプロジェクターと席上配布資料に基づきご説明を頂き、両町が取組まれている防災への姿勢と活動内容は、何を基準にするでもなく、秀でていることを実感いたしました。このことは、知半島という地理的なことから、津波や地震、土砂災害などの自然災害を被るであろうことの危険予知の表れにより、防災が当たり前のように、身についている印象さえ受けました。

スタンバイする櫻井講師

櫻井講師は、今月中旬に襲来した台風１９号の被害に触れ豪雨による河川の決壊・氾濫という思いも寄らない自然災害に、普段から関心を持つことが重要で、以前から行政が発行しているハザードマップ（防災マップ）を理解、活用することの重要性と、併せて、マップの更新にも努めて頂きたいとお願いをしました。

また、武蔵小杉のタワーマンションの停電がなぜ起きたのか、原因と今後の対策に触れ、住んではいけない危険な場所がある。そのことは、温故知新のように昔の地図を見たり歴史を紐解いて、今、住んでいる地形などが、どんな状況にあったのかを知ることが大切と説き、そのことに関連し、今は、知多半島に愛知用水が流れているが、昔は、農業用水として溜池が点在していたことを改めて、調べてみることも良いと促して前段の話をまとめ、プロジェクターと席上配布資料により説明を進めていきました。

最後に質疑応答の時間を設けたところ、「海溝型の地震のメカニズムは理解しているが、断層による地震のメカニズムを理解していないので、説明されたい」。また、「耐震基準の見直しが図られているが、耐震基準の現状と進化について、説明をお願いしたい」。最後の質問は、「避難所等で個人情報の共有が必要となるが、適切な方法を教えて頂きたい」と防災に対する参加者の熱い思いを感じる時間となり、櫻井講師からは、全てにお答えし、ご理解を頂きましたが、帰り支度をする講師へ駆け寄り、質問を投げかける参加者が見えるほど「防災の基

本講話」は、盛り上がりを見せました。

「防災基本講話」を真剣に聞き入る参加者の皆さん

【主な講話】

**1. 南海トラフ巨大地震は予知可能と言っていたのに何故できないの！**

臨時情報の発令及び対応などを説明。

政府や自治体の号令を待っていれば「安全」だという感覚は、大切な家族を守ることを難しくすることなどの説明をした。

**２．海溝型地震の前後に活断層地震が続発！**

知多半島の生い立ちと逆断層と撓曲崖(活撓曲)の違いなどの説明及び近隣の活断層の危険度などを説明した。

**３．最近の地震で見えてきたもの！**

熊本地震、大阪北部地震、北海道胆振東部地震の特徴を踏まえ、被害状況説明及び中部地方の電力供給状況、主な発電所が海岸近くの軟弱地盤上

に立地しており、長期のブラックアウト被害も想定されることの説明をした。

**４．活断層地震から生き残るには！**

住宅の耐震化と家具固定の必要性を説明。

昭和５６年６月からの新耐震、その後、平成１２年に建築基準法が改正され、一段と基準が強化されたこと、また、改正点を説明した。

**５．巨大地震から生き残るには！**

大規模災害に備えたタイムライン（防災行動計画）の策定の必要性及び策定の流れを説明した。

**６．今、問われる“自助”の備え！**

・ボランティアは来てくれるか

南海トラフ巨大地震は、被災範囲が広く、隣町もまた隣町も被災してボランティアは当分の間、期待できない。

・どれくらいの建物被害が出るの

東日本大震災より震源域が日本本土に近い。東日本大震災を超える広範囲の人口密集地が強く揺れ、広域で甚大な被害が発生する。

広域の災害地域に外から入ることは困難。

・体育館での避難生活がどれほど悲惨で過酷か広域地震災害では、命を守るのは勿論のこと、悲惨な避難生活を考えると地震後も住み続けられるか否かが住宅にとって重

要な性能になる。
7～１０日分の家族の食糧と共に自宅で避難生活ができるよう、「自助の備え」が今問われている。

## 最後になりますが

本日のキーワード

**防災　⇨　減災**

・まず、自分が生き残ること。
・そして、地域の人と一緒に災害に立ち向かうこと。

文責・写真：阿部　健二

# 自身を守る地震への備え

## ―　「いつか」のために自助の大切さ　―

日　　時：令和元年１０月２９日（火）　１０：００～１２：００
場　　所：名東生涯学習センター　視聴覚室　２階
主　　催：名古屋市教育委員会
イベント：名東生涯学習センター後期講座　「防災公開講座」
参 加 者：２０名
講　　師：NPO 法人　愛知県防災士会　防災士
　　**櫻井　　衞**　（副理事長・兼　企画委員長）
ファシリテーター：阿部

今回の出前講座では、初めて手話通訳ボランティアの木村さんと川村さんのお二人にお手伝いを頂きながらの防災講演ということもありましたので、少し早めに会場に到着し、櫻井講師から手話通訳のボランティアの方へ専門用語の解説と一連の流れを説明するほか、講師が説明するスピードの確認をして頂きました。

初めに当名東生涯学習センターの菊池さんから講師の紹介と併せ『火事の発生など緊急な対応が必要となりました時は、避難誘導をしますので、落ち着いて行動してください。』と、参加者へ冷静な行動を促した後に、講師へマイクのバトンタッチをして頂きました。

櫻井講師と手話通訳の方とのコラボ

講師は、以前、名東区に住んで居て、将来はこの近くに住みたいという願望があったことを、前段のプロフィールの一つに披露しながら、本題の「防災講話」の説明へと繋いで行きました。

上記サブタイトルにもありますように、大切な家族の命を守るためには、自助の進めが必要であり、ハザードマップ（防災マップ）の常備並びにマップの更新をはじめ、公助１０％、共助２０％、自助７０％が示す割合から、助けを待っていては、自分や家族の命を守ることに繋がらないことを強調し、耐震診断や家具の固定、備蓄等に至る防災対策について、常日頃から関心を持ち、自然災害が起きた時を想定し、準備しておくことが必要との勧めを説きました。

また、１０月２６日(土)～２７日（日）にかけて開催された知多市産業まつりで講師自ら、家具の転倒防止や乾パンの無料配布を行ったことなど防災啓発への取り組みを紹介しま

した。
　次に、日本を東西に分断する糸魚川断層に触れた後、南海トラフ巨大地震の４種類の連鎖に関する地震のメカニズム、そして、日本には活断層が約１，０００箇所あることから、正断層と逆断層のメカニズムを説き、東海地方にある断層地帯、また、過去に起きた地震に至るまでの説明を詳しく行いました。
　その他に北海道で起きたブラックアウト(広域停電)によりカードリーダーが使えない状況にあったことから、普段、ある程度の現金を持っていると安心につながるとのことや名東区の一部に液状化地帯があり、家を建てる時の地盤調査をしっかり行い、地震により液状化になっても家が傾かない対策も必要とのことや、地名や歴史から学ぶことにより、家を建てる条件に合致するか、どうかを見極める必要があることも説明しました。

　２４年前の１９９５年に起きた阪神・淡路大震災に学ぶとして、逃げ場を確保するために扉を開けておくということと、テレビやテレビボード、冷蔵庫の転倒防止・家具の固定化について、具体的に説明するため、写真と実物の金具を見て頂いて、簡単にできること、そして、改めて、**「自助の大切さ」**と家庭の備蓄品の備え、排便のための簡易トイレの常備を参加者の皆さんに理解して頂くことができました。
　防災に関して、いろいろなことに触れながら地震などへの防災対策について、講師から縷々説明を進めてきた後半に、巨大地震が多発した９世紀を注目し、歴史は繰り返すことのことわざをなぞると、東日本大震災後から９年後、つまり、来年に南海トラフ巨大地震が発生するかも知れないと警鐘を鳴らし、あっという間の２時間でしたが、本日の「防災公開講座」の締めくくりとして、最後に次のことをお伝えし、閉幕とさせて頂きました。

**防災講話を真剣に聞く参加者の皆さん**

**防災　⇒　減災**

**・まず、自分が生き残ること。**
**・そして、地域の人と一緒に災害に立ち向かうこと。**

文責・写真：阿部　健二

# 南海トラフ巨大地震予知不能

## ―　突然襲われる揺れにどう備えるか!!　―

日　　時：令和元年１１月１７日（日）　９：３５～１０：３５
場　　所：愛知医科大学病院　大学本館３階　３０２講義室
主　　催：ドレミの会(腎移植後の患者の会)
イベント：第９回　ドレミの会　防災講演会
参 加 者:６０名
講　　師：NPO 法人　愛知県防災士会　防災士
　　**櫻井　　衞**　（副理事長・兼　企画委員長）
ファシリテーター：阿部

今回の防災講演会の依頼を愛知医科大学病院「ドレミの会」からお受けして、打合せを８月２８日（水）に行うことができました。

当病院とのきっかけは、今年の３月１７日（日）に JCHO 中京病院で腎移植者並びにご家族を対象とした櫻井講師による「防災講演」に同席されていた愛知医科大学病院レシピエント移植コーディネーター渡邉様の橋渡しにより、腎移植後の患者の会「ドレミの会」との接点が生まれました。

開催当日は、進行役を務められた渡邉様から開会及び本日の予定に関するご案内が行われ、続いて移植外科部長の小林教授から開会に際しての挨拶がありました。その後に本日のメインテーマである防災講演会「南海トラフ巨大地震　予知不能」を担当する櫻井講師へと進行して頂きました。

小林教授が挨拶の中でトイレの話に触れられたことから、櫻井講師は冒頭からトイレについて、『地震が起きた時に、食べることも大切ですが、排泄のことは、もっと深刻であり大切なこと』との説明と併せ、簡易トイレ（断水トイレ）について紹介をさせて頂きました。

大規模災害が発生した時の基本スタンスは、**自助７０％、共助２０％**、公助１０％となっており、広域に亘る甚大な災害となれば、公助のウエイトは下がり、自助と共助により最低４８時間は生きながらえる“備え”が必要であることを強調しました。

その他に、南海トラフ巨大地震の可能性が高まった場合の防災対応をまとめた自治体や企業向けのガイドラインが、今年の３月に政府から公表され、臨時情報の「２段階割れ」、「一部割れ」、「ゆっくりすべり」について説き、この巨大地震が発生した場合、東日本大震災との比較から、死者・行方不明者約１９，０００人に対し、南海トラフ巨大地震は、約３２３，０００人と１７倍に膨れ上がるという推定に達し、このように被災人口が余りにも多く、生産拠点を多く失うことは、日本経済の危機的状況が存在していることを示唆し、２０１８年５月３１日の中央防災会議による発表では、建物の耐震化並びに感電ブレーカーの普及等の自助から死者・行方不明者と全壊建物の被害ともに、減少されるとの推定が発表されていることを示しました。

とはいえ、安心の拠り所は、「備え」と「対策」を万全にしていくことが重要であり、日本の活断層は、中部地方にひずみが集中している中、明治２４年に濃尾地震の引き金となった根尾谷断層帯、そして、昭和２０年に三河地震の引き金となった深溝断層帯、その他にも屏風山・恵那山断層帯、恵那山―猿投山北断層、猿投―高浜断層帯、加木屋断層帯など活断層帯の存在を認知し、教訓を活かすためにも古文書を読み歴史を振り返ることの大切さを説きました。ちなみに、名古屋城や熱田神宮は、良い立地条件の上に建てられていることで証明されています。

最近の地震から見てとれることとして、熊本地震や大阪北部地震、北海道胆振東部地震などから耐震基準に適合している建造物であっても１階が２階に押し潰されたり、或いは、ブ

ロック塀の構造や現状を検証すると傾いていたり亀裂が入っていたりとか、また、液状化現象により建物が傾斜するなど、点検や改善を進めていかなければならない箇所は、身近なところに散見されるという現状を説明し、もともと木曽三川の洲になっている地盤の柔らかい濃尾平野に住んでいる以上、早急に対策を講じなければならないとの警鐘を鳴らしました。また、発災後、北海道全域において、ブラックアウト現象に見舞われ、コンビニ等での買い物は、現金でしか通用しなかったことから、手元に多少現金を置いておく必要が出てきたという事例を紹介しました。

また、阪神・淡路大震災で亡くなられた原因が家具などの下敷という事例から、家具や冷蔵庫の固定方法を写真で具体例を示し、『まだ家具の固定化がされていない家が実際多いという現状を正していかないと、犠牲者は減少しない。だから、固定化する』とのことを受講者へ強く勧めました。

最後に櫻井講師は、地震の歴史は繰り返されることを強調し、本日の防災講演に関するキーワードを、

**防災⇒減災**

**・まず、自分が生き残ること。**

**・そして、地域の人と一緒に災害に立ち向かうこと。**

地道な対策や訓練の積み重ねが「減災」につながると述べ、防災講話を終了させて頂きました。

文責・写真：阿部　健二

## 防災・救急に役立つ日用品活用法

―　防災意識を日ごろから高める　―

日　　時：令和元年１１月１８日（月）１５：２０～１６：１０（7限目）
主　　催：愛知県立　碧南高等学校
目　　的：防災に関し、救急に役立つ日用品活用法を専門家から活動内容を聞き、起こりうる災害に対し、防災・減災の知識を学びとり、日ごろから防災意識を高める。
参 加 者：１，０１８名（１年生３２０名、２年生３１７名、３年生３１７名、教職員６４名）
講　　師：NPO 法人　愛知県防災士会　防災士

**羽田　道信　氏**（防災アドバイザー、研修委員）

（藤田医科大学　医療科学部　特任教授）
ファシリテーター：寺島、森、加藤（和）、髙木、阿部

防災講演開催当日の午後３時１０分ころから、全校生徒さんは体育館へ集合され、定刻の午後３時２０分に伊豫田校長先生から羽田講師の紹介をして頂いた後に、「防災・救急に役立つ日用品活用法」講座へ移らせて頂きました。

約１，０００名の生徒さんが体育館に集合されている光景は、見慣れていないせいか壮観と言う感じを受けました。後方に座っている生徒さんからは、壇上に上がっている講師の顔が、はっきりと見えないくらいになっていましたが、防災に対する講師の熱意と説明は、しっかり伝わっているようでした。

**校長先生から紹介を受ける羽田講師**

① ビニール（透明）袋の活用

建材が火事で燃焼して有害なガスや煙が発生した場合、避難経路をたどっていく際に、空気を大きめなビニール袋に溜め、そのままビニール袋を頭からすっぽりかぶり、裾にあたるところをねじりすぼめて、外から煙や有害なガスが侵入しないようにすると避難するための３～５分の時間を稼ぐことができる。

ビニール袋を頭からかぶる講師

また、身体の６０％を水分が占めているので、脱脱水症状や熱中症を予防するために水分を摂取する必要が出て来る。その他にも、調理用や手を洗ったりすることに使われる。指定避難所へ行くと給水車から１回につき２０リットルの水を貰うことが出来るので、ビニール袋に溜めてもらい、取手を作るために本結びにして、持ちやすいようすると、高層マンションの階上へ持っていくのにも便利である。

その他に、ここでは、あえて不透明の中くらいのビニール袋は、簡易トイレとしても有効に使える。

また、スーパーのレジの時、或いはレジを済ませた後、カウンターにロール状に巻かれた大小２種類の見慣れている透明ビニール袋（耐熱性ビニール）は、停電の時に温かい食事を摂る時に有効に使える。用意する物は、カセット卓上コンロとそのガスコンロに適合するガスボンベと水を入れる鍋。そして、水と食材、調味料、スパイス等があれば、個人個人の好みに合わせたバリエーションある食事が可能となる。

② サランラップの活用

サランラップは、止血や骨折の時、三角巾の代用として有効であり、こよりの様に紐状にすると縛る道具にもなる。更に、紐状のものを三つ編みにすると強度が増し、ロープ代わりにも活用できる。また、食器の上にサランラップを敷き、食材を乗せると水が貴重な時に、食器をいちいち洗わなくて済む。その他の活用にこぶし大にサランラップを丸めて、食器洗剤用スポンジの代用にもなり使い捨てが可能となる。

③ 傷病者の搬送方法

３年生の女子生徒さん３人にご協力を願って壇上へ上がって頂き、災害に見舞われ自力で歩けない傷病者を想定して２人掛かりで、移動させる方法を実践して頂いた。

女子生徒さんによる搬送実演

救助者は、向き合い傷病者右側の人は右手首、左側の人は左手首を傷病者の腿に当たる位置に組み、救助者双方の残っている手を互いの肩に乗せ、傷病者が後方にのけぞらないようストッパーの役目を果たす。傷病者は、両腕が使えるようであれば、救助者の両肩に腕を回す。そして、救助者は、傷病者が落ちないようにゆっくり立ち上がり進行方向に態勢を向けて進む。

この実演に習い全校生徒さんに３人一組となって傷病者の搬送方法を実践して頂いた。

④ 担架による傷病者搬送方法

今度は、１年生の男子生徒さん９人に壇上へ上がって頂き、仰向けになった１名の傷

病者を８人の救助者で移動させる方法を実践頂いた。

傷病者の足元の方を進行方向とし、救助者４人が向き合い手首を互い違いにヒューマンチェーンの様にほどけない組み手を取って頂き、傷病者の頭の方からゆっくり足元の方へと連鎖させながら持ち上げて、救助者は進行方向に態勢を向けて進む。

この実演に習い全校生徒さん９人が一組となって、傷病者の担架搬送方法を実践して頂きました。

男子生徒さんによる搬送実演

⑤ 毛布による防寒方法

災害が発生した時が冬とか寒かった場合、身体が動かなくなってしまうので、毛布１枚で防寒着にする実演を３年生の女子生徒さん１名にご協力を頂き実践した。

着こなしは、毛布を着物の要領で着て、腰ひも１本を止め結びにして温かく、且つ、着こなしが崩れないようにする方法を説明して、持ち時間５０分（７限目）を有意義に使わせて頂いた。

女子生徒さんによる防寒方法

最後に全校生徒を代表して、２年２組の倉内君が登壇され、『短い時間でしたが、私たちに身の回りにあるものを活用して防災と救急に関する講話を頂きました』と講師に対する感謝の気持ちを込めた挨拶を頂きました。このほか、今回の防災講演に関してのアンケートに高校を挙げてご協力を頂き、約１００％の回収率に愛知県防災士会として感謝を申し上げたい。

全校生徒を代表してお礼の言葉

文責・写真：阿部　健二

# 巨大地震から生き残るために‼

## ―　高めよう　自助力　―

日　時：令和元年１１月２１日（木）　１０：００～１１：３０
場　所：名古屋市立　牧野小学校　視聴覚室
主　催：名古屋市立　牧野小学校ＰＴＡ保護者会
　　牧野小学校家庭教育セミナー
目　的：今後、発生が懸念される巨大地震に備え、自助力（命を守る力）を
　　高めるためのセミナー。
参加者：３９名
講　師：ＮＰＯ法人　愛知県防災士会　防災士
　　**櫻井　　衛**　（副理事長・兼　企画委員長）

ファシリテーター：阿部

防災講演の開催日は、名古屋駅の近くで※Ｇ２０が催される前日ということから、テロなどの対策を講じるための交通規制が始まり、交差点等に警察官の方が警備に当たり、そういう意味では大変、物々しい中で保護者の方がお集まりになられた「防災講演」と言えます。

しかし、この教室の中は、外の物々しい緊張感漂うという雰囲気よりも、どこか、
講師と受講者との間には、初めて会ったような遠慮より打ち解けた仲間のような印 象さえ感じられました。

司会者から紹介を受ける櫻井講師

その様な中で、講師から今日に至る生い立ちなど含め、プロフィールを紹介しながら、本題の自助力を高めるセミナーへと繋げて行きました。

南海トラフ巨大地震の予知ができると言っていたのに予知は不可能という実態を示し、それに代わるものとて、気象庁から発表される「東海地震に関連する情報」に傾聴しなければならないことを説き、臨時情報はどんな時に発表されるか、３種類のパターンから実践的　「**備え**」が必要であることを強調され受講者へそのことをしっかり伝えました。

大規模災害発生時の基本的スタンスは、自助７０％、共助２０％、公助１０％の割合を示しながら、生き延びるために自助、共助の大切さ重要性を受講生にインプットしました。

南海トラフ巨大地震の予兆とも思われる地震の群発状況を表す日本地図を示し、仮に南海トラフ巨大地震が発生した時の当初の人的被害想定から中央防災会議結果で発表された減少試算に至る経緯を説明しました

試算が減少傾向にあった理由として、「備え」に対する反応から建物の耐震性向上や感震ブレーカーの普及など、自助の勧めが功を奏した結果となってきており、更に「備え」が広範囲に亘り加速されることを願い、受講生にその思いを託した形となりました。

講師の講話を真剣に聞く受講生

そのあと、日本の活断層が、今、住んでいる中部地方にひずみが集中していることや濃尾地震、三河地震など過去に起きた地震を振り返り、また、熊本地震、大阪北部地震、更には、北海道は胆振東部地震において、ブラックアウトによって現金が無いと物が買えない状況など、最近の地震から学ぶことが出来た教訓を説き、更には、東日本大震災で起きた津波によって、大川小学校で多くの尊い命が奪われた事例を伝えると共に、同じような小学生を持つ受講生の母親の心の中へ「防災・減災」に対する「**備え**」は、普段から大切なんですよと、警鐘を鳴らしました。

説明に熱が入る櫻井講師

※
**Ｇ２０愛知・名古屋外務大臣会合の概略**
Ｇ２０及び招待国等の外務大臣が一堂に会し、世界経済の安定と持続的かつ包括的な成長のほか、国際社会が直面する諸課題について議論する会合です。
開催日程：令和元年 11 月 22 日(金)、
23 日(日) の両日
会　　場：名古屋観光ホテル

南海トラフ巨大地震に限らず、地震が発生した時に外出していた場合、ブロック塀が倒れ

てきたり、ビル街ではガラスの雨が降ってきたりして、危険と隣り合わせになっているので、その時にパニックにならないよう対策・対応を予め覚えて行動することと、タイムライン（防災行動計画）と共に家族で話し合合いの場を持つことも大切。また、お子さんが、被災した時のメンタルケアにも気遣って頂きたいことをお願いしました。

また、日常、家の中で生活している時に、地震が発生した場合でも安心・安全の拠り所となる家具等の固定について、具体的、かつ、しっかりと手ほどきをしました。

歴史は繰り返すという名言通りになる恐れのある巨大地震が来年に発生することが危惧していることと、名古屋市内の古地図から液状化、また、名古屋市中心部を縦横に２本走る活断層の存在を説明し、

最後になりますが

本日のキーワード

**防災　⇒　減災**

・まず、自分が生き残ること。
・そして、家族、地域の人と一緒に災害に立ち向かうこと。

**地道な対策や訓練の積み重ねが「減災」につながる**

ということをお伝えして、防災講演を締めくくらせて頂きました。

文責・写真：阿部　健二

## もしもに備えて簡単クッキング

### ―　被災しても生き残れる方法　―

日　時：令和元年１１月２３日（土・祝）　９：３０～１２：００
場　所：つどいの館「和光」（柴田学区コミュニティセンター）
主　催：東海地方郵便局長協会
　　名古屋市南部地区郵便局長会　南西部会
目　的：伊勢湾台風から６０年を迎え、甚大な被害を受けられた名古屋市南区（柴田、白水、千鳥学区）に在住される住民の方を対象として、郵便局が防災研修会を開催し、地域に役立てて頂く施策を展開する。
参加者：５０名

講　師：NPO 法人　愛知県防災士会　防災士
**原田　友子**　（理事・兼　副広報委員長）
ファシリテーター：寺島、手塚、保坂、久野、阿部(5 名)

防災研修会「もしもに備えて簡単クッキング」を始めるに際して、地元郵便局長さんや中若郵便局長さんにお手伝いを頂きながら研修会を進めて行くことから、講師は、各テーブルに準備する物とか、一連の進行要領をレクチャーして、本日の防災研修に臨みました。

説明をする原田講師

冒頭、主催者を代表して名古屋市南部地区郵便局長会加藤　満宏会長（名古屋有松郵便局長）より「毎年、各行政区ごとに防災研修を開催させて頂いている。郵便局長を地域にお役だてて頂きたい」との願いを込めた挨拶のあと、NPO 法人　愛知県防災士会　寺島理事長、そして、本日、お集りになられた学区を代表され、相原学区区政協力委員長から挨拶を頂き、防災研修へと移行しました。

挨拶をされる加藤会長

まず、最初に原田講師から「なぜ、防災研修が必要なのか。なぜ、パッククッキングが必要なのか。」研修の第一歩に当たる説明から始めていきました。

そのあと、この研修を通じて災害に遭っても生き延びる自助の大切さを受講者に理解して頂いたあと、「ご飯・焼きそば・乾パン味噌汁」の順番に作り方を時間を掛けながら、参加者全員が足並みを揃えて進行していくよう、サポート役の郵便局長さんを含め、スタッフ皆が気を配りながら進めていきました。

挨拶をされる相原委員長

**① ご飯の作り方**

説明をしながら進める様子

あらかじめ、こちらで準備した計量カップにお米を黒い線(75ｇ)まで入れて、耐熱ポリ袋に移し入れた後、今度は、同じ計量カップの赤い線（90ml）までペットボトルの水を入れて、ポリ袋へ注ぎ込みます。ポリ袋から空気を追い出しながらポリ袋の口がある方の先端で空気が入らないようにして縛ります。ポリ袋に空気が入っていると、空気が膨張して破裂する恐れがあります。複数の方のポリ袋を一堂に鍋の中へ入れますので、熱湯に強い平たいビニール紐に個人の名前を油性マジックで書き、タグとして、先端を絞ったポリ袋の結び目の下くらいにタグを結び、区別化を図ります。

ポリ袋に直接油性マジックで名前を書きますと４５分後には、名前が判別しにくくなる場合がありますので、それを避けるための方法です。ポリ袋をお湯に入れて４５分待

ちます。お湯が沸騰した後は、ガスコンロの火は弱火にします。４５分後に、火傷をしないようトングなどを使い、ポリ袋を料理用ハサミで切り、ご飯を皿に乗せます。フリカケや塩コンブなどをご飯の上に乗せますと、より一層、美味しく頂けます。なお、お米は無洗米で無くても大丈夫です。ガスコンロを使う時は、酸欠を防止するための換気を忘れずにすること、大きい鍋は、ガスボンベが爆発する危険性があります。また、お子様が触らないよう、また、火傷に注意しながら温かく美味しく頂けるパッククッキングをチャレンジしてみてください。

試食料理を提供する講師

**② 蒸しパン、レモン掛けサツマイモ、カボチャの煮物、白菜とサバ缶煮つけの試食（サンプル提供）**

ご飯が出来上がるまでの時間を利用して、講師が別のレシピを準備し、参加者へ試食して頂きました。

作る要領は、ご飯と同じで材料をポリ袋に入れるだけで美味しく作れます。

- 蒸しパン　２０分
- レモン掛けサツマイモ　２０分
- カボチャの煮物　１０分
- 白菜とサバ缶煮つけ　２０分

この調理方法は、アレルギー体質とか支援を要する方に配慮した最適な食べ物を提供することが出来るメリットがあります。

食事中の参加者の皆さん

**③ 焼きソバの作り方**

今回は、市販のビニール袋入り焼きソバを料理用ハサミで半分に切り、それを一人分の量としてポリ袋に入れ、ベーコンやキャベツ、ニンジン、もやし、ピーマンなど好みの食材を適宜の大きさにカットして混ぜます。味付けは、塩やコショウ、ソースを適量入れて、その後、味付けが食材に万遍なく行き渡るように片手で軽く揉みます。そして、鍋の中へ２０分投入したあと、お皿に移し替えて完成となります。味が薄い場合は、好みの量のスパイス等を加えて味を整えます。

**④ 乾パン味噌汁の作り方**

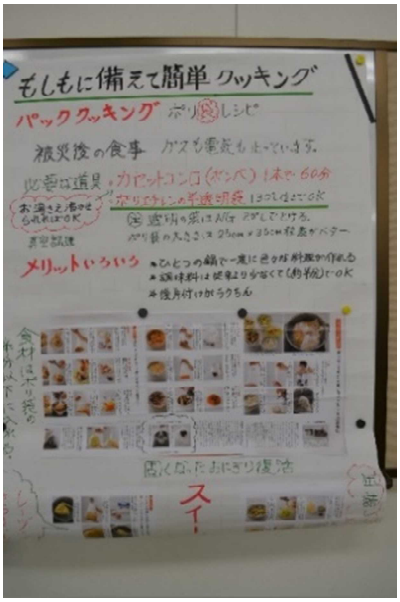
コップやお椀に乾パン２個とインスタント味噌汁中身を入れて、お湯を注ぐだけで出来上がりです。

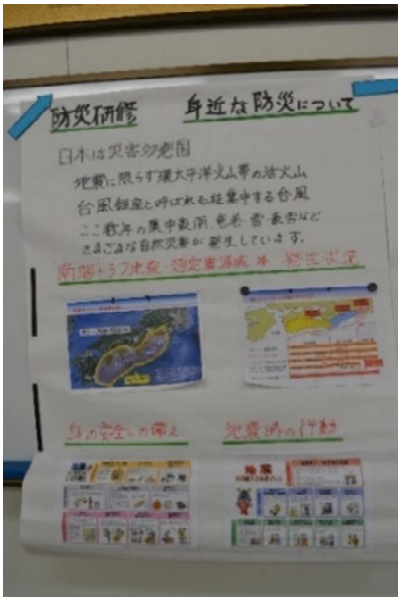
なお、コップに熱湯を入れるとビニール製は、変形する可能性があり、紙製品と共に持った時に火傷をしないように気をつけてください。

和気あいあいと談笑中

午前１１時２０分より参加者の方に食事を始めて頂き、その間の時間を利用して、講師から南海トラフ地震のメカニズムや臨時情報等の理解度アップ、更には「備蓄」の勧めを説明して、防災研修を修了いたしました。

なお、朝早くから最後の机やイスの収納、床の掃除に至る全ての行程を、郵便局長さんがメインとなり行って頂きました。ご協力に感謝します。




**２種類の講師手書き掲示用ポスター**

文責・写真：阿部　健二

蒲郡市赤い羽根共同募金助成金事業

## 「地区防災リーダー研修会」

## ～ 現場主義　実践主義の立場から ～

日　　時：令和元年 11 月 25 日（月）午後 6 時 50 分 ～ 8 時 50 分
会　　場：蒲郡市勤労福祉会館　視聴覚室
主　　催：防災塾 ～知ってて蒲郡～
講　　師：NPO 法人　愛知県防災士会　防災士
　　防災アドバイザー　**広瀬　一行**
ファシリテーター：小林
会場下見：令和元年 10 月 23 日（水）午前 10 時 ～
参加者数：67 名

「もしもの時」の実働者である仕事帰りの現役世代が参加し易さをと、平成 23 年度 ～28 年度までの 6 年間も夜間開催をしてきました「地区防災リーダー研修会」2 回コースを 3 年ぶりに再開しました。市防災担当部長の意向も受け、防災意識向上のため市民、地区役員、団体役職者に「具体的先進地活動事例」をと計画、講師選考をしました。

今回、防災アドバイザー　広瀬一行氏が快くお引き受け頂き、遠路事前下見、会場指定管理者の社会福祉協議会職員と打合せをして頂き、パソコン、プロジェクターともご自分の物を持

ち込みでお願いすることになりました。事前送付頂いた資料を基に、地元地区の住民レベルでの防災意識啓発、避難行動体験などを、テーマ通りの現場、実践体験談として、60 頁もの資料を基にパワーポイントを使って講演をして頂きました。

**1）ハザードマップ作成のための街歩き**

年代を超えた住民での、

＊街の危険なもの、

＊役に立つもの、

＊役に立つ人の深堀り

**2）防災クイズを通して防災知識を**

**3）ハザードマップの活用　避難訓練**

**4）地区防災計画作成**

みんなでできる現実的な計画の作成

**5）防災関係事業** 住民周知案内、報告書、住民世帯主確認表、避難訓練関係等々書類資料添付、パソコン・USB 入力

**6）広瀬講師地元活動状況**・・・ケーブルテレビ放映

**7）「安否確認（まさかの時の登録票）作成」**

**8）避難所開設・運営訓練**

・避難所レイアウト・安否確認表・要配慮者名簿・防災訓練参加者地図

・要支援者避難支援プラン・避難所運営訓練手順・・・

２時間しっかり時間を使っての講話に、参加者が熱心に聞き入り、「このお話しならぜひ資料元本が欲しい」と講話終了後入力希望者もあり、時間外 会館管理人材派遣のシルバーさんから閉館の催促を受けるハプニングもありました。

アンケート結果からも、過去開催時より、具体的意見も読み取れ、参加役員の地区が、実際に動き出すための課題と糸口を見つけることに期待し、支援できる防災塾 ～知ってて蒲郡～の会員力向上も必要と考えています。

**◎アンケート結果から**（67 人中）抜粋

回答数 44 人（65.6%）

**1）地区防災計画について**

（蒲郡市防災計画は地域防災計画です）

A 言葉は聞いたことがある　22 人

B 聞いたことがない　5 人

C 市が作成してくれると思う 2 人

D 自分の地区で取り組まなければいけないと思う　18 人

E 自分の地区では取り掛かっている　2人

F 自分の地区では作成済み　1人

**2）あなたの心配な自然災害は**（複数回答可）

A 地震　55人　B 津波　24人　C 高潮 25人　D豪雨　32人　E河川氾濫　15人

F 土砂崩れ　8人　G 台風　14人　H 液状化　4人　Iその他(暴風2人竜巻2人)

**3）今回の講話　稲沢市「現場主義、実践主義の立場から」は**

**今後、防災活動、備えに活用できることがありましたか**

A 大いにあった22人（具体的活用部分記入27件あり）

B 少しあった 8人

C 時間が掛かるが取り組んでみたい11人

D 仲間があれば 6人

**4）ご提案（防災について知りたいことなど）**

・高齢者・身体・知的障がい者・肢体不自由児・者のためになる研修希望(80歳代男)

文責：小林　春代

## 【介護事業における防災・減災対策講座】

## “災害に備えた体制整備と災害時の対応をいかにすべきか！？”

### ～　最悪の事態を想定し、最適解・最善策を　～

日　時：令和元年１２月１９日（木）　１３：３０～１６：３０
場　所：名古屋商工会議所　３階　第５会議室
主　催：公益財団法人　愛知県シルバーサービス振興会
目　的：今後、起こりうる災害時に対し、主として介護関係に携わる管理者や現場スタッフに求められるものは何かという視点から、事例を中心とした講義や演習によって理解を深める
参加者：介護福祉関係者等　　３７名(６グループ・１グループ６～７名)
講　師：NPO法人　愛知県防災士会　防災士
防災アドバイザー、研修委員
**羽田　道信　　氏**
（藤田医科大学　医療科学部　特任教授）
ファシリテーター：寺島、手塚、保坂、加藤（和)、原田、宮澤、阿部
（７名）

冒頭、寺島理事長より「今回の防災・減災講座から災害について理解を深め、それを日々の業務に役立てて頂きたい」と介護福祉に携わる参加者へ思いを伝え挨拶といたしました。

羽田講師からは、主催者からの依頼を受けて今回が４回目となること、そして、本日の進

め方を１部は座学とし、休憩を挿み、２部を内閣府が推奨するクロスロードゲームにするカリキュラムを説明しました。

【第１部】

介護事業所における防災・非常災害対策講座とし、災害時の対応策や普段の備え、介護施設・介護職特有の対策と銘打って、入所者や利用者の安全をどう確保するかについて、参加者へ判りやすく説明をしていきました。

説明をする羽田講師

災害が発生した時に、まずは、「自助」が大切であるが、しかし、介護職として自分の身の安全を守るだけで無く、入所者等の安全確保も求められることは言うまでも無い。近年の自然災害を教訓とし、「多様化」、「頻発化」、「激甚化」の傾向にあることを理解し、直面した時にどのように対処していったら良いか基本的な「自助」「共助」「公助」の考え方を認識して頂きました。

なお、防災・減災の要として、「自助」「共助」を大切にしていくことが重要であり、「自助」は最大の「共助」になることを説きました。

また、介護施設や介護職特有の課題が有り、入所者や利用者の多くは、自力での避難は困難を極めることから要支援者に合わせた避難・移送のための搬送道具や対応人数を考慮する必要が出て来る。実際に東日本大震災の時に指定避難所が津波によって流され、万が一を想定し、第二、第三の避難場所と順路を予め決めておく必要があることを強調した。その他に、入所型の施設では、シフト制の勤務形態で運営されていることが多く、発災時は少ない人数しかいないという最悪の状況を想定しながら対処する体制を構築しておくことが大切であることも併せて説きました。

講座を真剣に聞く介護従事者

実際に命を守る避難において、要支援者に合わせた水平及び垂直避難による移動方法と介護リフトやおんぶ袋の機材を使っての避難方法、併せて、台風１０号により岩手県岩泉市の高齢者グループホームが浸水し、入所者の方が９名犠牲になったことと併せ、災害時に求められる安全確保行動に伴う訓練等の重要性を説きました。また、気象庁が発表する警戒レベルの情報を把握し、取るべき行動を取り決めておく必要があることも説きました。

更には、介護福祉に携わる参加者へ「プロアクティブの原則」と「実効性のある非常対策計画」並びに「災害時リスク・アセスメントシート（課題・対応策整理票）」を縷々説明して、第１部を終了いたしました。

【第２部】

クロスロードゲームと言っても、ゲーム感覚で行うものでは無いこと、そして、クロスロードの進め方をしっかり認識して頂いた上で、進めて行きました。

初対面の方同士がテーブルに付いていますから、まず、じゃんけんで負けた方から自己紹介をスタートして頂き、時計回りの方向にスピーチする法則を定着させました。

１グループを７人から６人の構成にして、一人にＹｅｓとＮｏのカードを１枚ずつ持たせ設問をスクリーンに映し出し、その設問を講師が読み上げ、理解した上で、瞬時に自分が考えること、自分が取る行動をＹｅｓとＮｏの

クロスロードゲーム模様

カード、どちらか一方を自分の目の前に差し出します。講師がオープンと号令をかけた時、目の前の自分のカードを開き、なぜこのカードを自分が選んだかを、時計回りに順番にグループ内で発表します。発表していない人は、じっと聞き役を努めます。

グループ内で個々に発表している間に、それぞれのグループを担当するファシリテーターが、ＹｅｓとＮｏの数を講師に告げ、その数をＰＣへ入力・集計し、スクリーン上に表示しました。６グループの中で最も少ない数に注目しながら、なるべく各グループともに均等になるような形で「なぜ自分は、このカードを選んだか」を発表して頂きました。

当初、予定の１０の設問を終了時間の午後４時３０分前に終了することができました。

各設問の状況設定が具現化していない部分がある為に、迷っても、設問の内容を瞬時に理解し、どちらかのカードを出さなければならないことへのストレスを若干なりとも感じながら、介護施設に携わる参加者にとりまして、脳トレに匹敵するくらいの判断力と実効力を磨く講座にして頂けたと自負しています。

文責・写真：阿部　健二

## ２．スキルアップ研修（２０１９年１０月～１２月末）

### ①　日帰りスキルアップ研修旅行に参加して

下村　宜史（名古屋沢上郵便局長）

今回初めて防災士スキルアップ研修に参加させて頂きました。

岐阜県根尾谷断層の６メートルにも及ぶ垂直に隆起した岩盤の姿を目の当たりにした時、それが一瞬の地震で、このような大変動を起こした威力に圧倒されたと同時に、いつ来てもおかしくない災害に、自分自身が直面した時、いったい自分は、どういったことができるのかを深く考えさせられました。

地震断層観察館と地震体験館

地に刻まれた大自然の力

また、今回の研修旅行がなければ、こういった場所を訪れることはなかったと思います。地域の郵便局長として、防災・減災に関する身近にできることを考え、いつ、このような自然災害が起きても、対応できるだけの知識と技術を学んでおくことの大切さ、そして、日頃からの備えの重要さを再認識することになり、いい経験をさせて頂きました。

早速、今日から防災の備えのチェックなど、できることから始めていきます。

尾根のように隆起した断層

写真と模型による断層の説明

## ②　日帰りスキルアップ研修旅行に参加して

大村　泰史（名古屋柳橋郵便局長）

令和元年１０月５日（土)、快晴の中、NPO 法人愛知県防災士会の研修に参加させて頂きました。

岐阜県本巣市の「根尾谷断層観察館」では、地震災害について、そして次に同県海津市の「海津市歴史民俗資料館」では、水害について学んできました。

根尾谷地震断層観察館では、地震によってできた断層のズレから地震のメカニズムの説明を受けました。その破壊力から地震の恐ろしさや対策の難しさを改めて感じました。また、震度６の地震を実際に体験することができ、南海トラフ巨大地震等の地震では、これ以上の震度になることが予想されており、唯々怖さを感じました。

震度６恐怖の地震体験館

海津市歴史民俗資料館では、３本の大きな川（揖斐川・長良川・木曽川)に挟まれた低い土地で、いかに水害と戦ってきたかを学びました。尊い犠牲を払いながらも知恵と工夫で水害を乗り越えた様は、見事だと感じました。現代のように機械が無い時代、如何にして身を守ってきたかは、災害対策の大きなヒントをもらった気がします。

高須輪中の説明を聞く防災士

災害は、いつどこで起こるか判りません。どうしようもないことも多いです。しかしながら、先人の経験を学ぶことによって、少しでも被害を減らすことができます。その為には、災害に対する知恵や万が一に備える意識と準備が必要だと感じました。研修の経験を活かし、郵便局の大切なお客さまと社員を守っていきたいと思います。

# 「ぼうさい　こくたい　２０１９in名古屋」散策

１０月１９日（土）・２０日(日)の二日間、令和初の「ぼうさい　こくたい」並びに「あいち・なごや防災フェスタ」が同時に開催されました。また、折から「名古屋まつり」も開催されていることから１９日のみ午後５時３０分から「三英傑・三姫との写真撮影会」が名古屋コンベンションホールにて行われました。

名古屋駅から名古屋臨海高速鉄道「あおなみ線」に乗り、１区間の「ささしまライブ駅」から徒歩３分のところに今回の防災イベント会場があります。

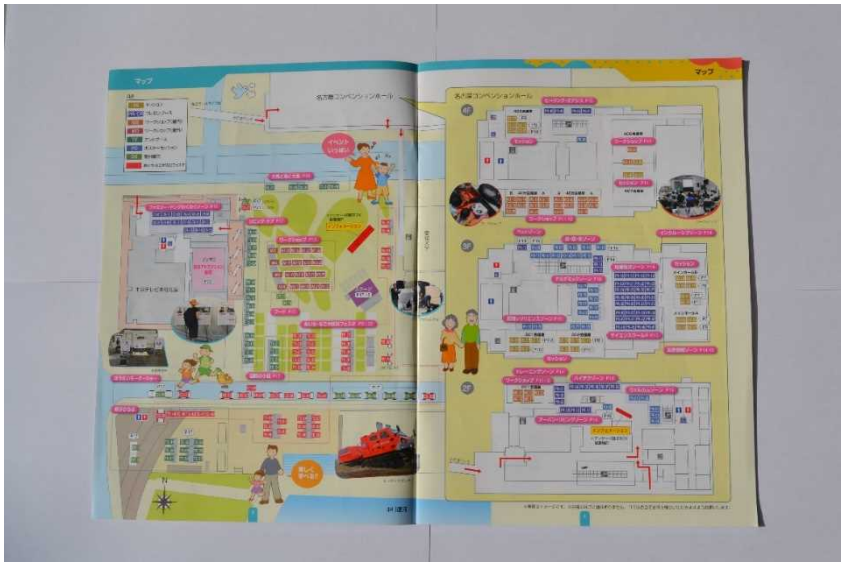
駅から２階連絡通路を渡り、直接、名古屋コンベンションホールへ行くことができました。

開催日が１０月１９日（土）ということもあり「防災を、もっと日常に」のキャッチフレーズ通り防災を身近に感じ、また、学習しながら一日を有意義に過ごされたご家族連れが多く見られました。

ささしまライブエリアの中京テレビ内には、ブース展示や脱出ゲーム、名古屋コンベンションホール内には、さまざまなセッションやワークショップ、ブース展示を行うところがありました。

また、なごや地球広場内では、世界の「今」と「未来」に参加しよう！というイベントを開催している建物がありました。

一方、屋外のキャナルゲートエリア内の、コーナーの一角では起震車の体験コーナーに行列ができており、テントブースでは、消防署や自衛隊などの車両の展示、また、パークエリアにもテントブースやステージイベントも開催され、特にトイレに居て地震と遭遇した時や、避難所などで切実な問題として直面する「うんこ先生プレゼンツ」は、子供さんたちに大受けで、ステージが終わるたびにユルキャラ風のとても可愛い「うんこ先生」とツーショットの記念写真を撮るなど、大変な賑わいを見せていました。




コンベンションホール３階のブースが連なる一角（PR-３９）に、NPO法人日本防災士会のブースが設置されており、日本防災士会の紹介や活動内容等をご理解いただくための４種類のパンフレットとメールマガジン会員登録と防災士研修講座のご案内の２種類を「助けられる人から助ける人へ　防災士」とタイトル入りの封筒に入れて、訪れる方々へ配布されていました。

隣には、セッションを開催するホールがあるため、セミナーやパネルディスカッションが終了するたびに人の入れ替えが行われ、周辺は、人の熱気に包まれ、ブースを運営している

ところでは、多くの来場者にPRが出来るゴールデンタイムの時間となっていました。

そして、この２日間で日本防災士会のブースへご来場された方は、配布した資料の封筒の数からして、両日合わせて約６５０名の方がお見えになり日本防災士会のPRが出来たと伺っております。

また、隣の部屋（メインホールA）におきまして、「地区防災計画のこれからを考える」のテーマによるパネルディスカッションが、午後４時３０分～午後６時まで開催されました。

７人のパネラーの一員にNPO法人日本防災士会松尾理事長が参加され、日本防災士会は『地区防災計画イコール日本防災士会、日本防災士会イコール地区防災計画と認識して頂きたい』との強い思いを語られた後、日本防災士会の目的や活動理念など多岐に亘り説明をされました。

そのあと他のパネラーの方へと説明が続き、地区防災計画への取り組みや思いを割り当てられた時間の中に貴重なデータや説明をお聞きすることができ、大変、新鮮な感覚と感動を覚えました。

ささしまライブ駅から延びる通路

名古屋コンベンションホール

パークエリア

キャナルゲートエリア

今回、名古屋市内ということと、更には名古屋駅に近い場所ということもあり、内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議主催による「ぼうさい　こくたい」が開催されることに伴い、微力ながら愛知県防災士会がお役に立つことができればとの思いから、集客効果を高めることの役割が大切と考えた施策として、支部会員３５０名をはじめ日本防災士会東海支部連絡協議会（静岡県・岐阜県・三重県の三支部）並びに名古屋市内約３００の郵便局に対してパンフットを送り今回の活動をPRさせて頂きました。

文責・写真：愛知県防災士会　阿部　健二

# ・・・想定外の災害の発生に備えましょう。・・・

## 副　題：100 年先、1000 年先の災害が今、起きるかも知れない。

令和の年を慶賀する中で、今年は全国各地において風水害による災害が多く発生しました。
9 月 5 日に発生した台風 15 号と 10 月 12 日の台風 19 号は､未曾有の災害をもたらしました。
台風 15 号の被害の傷跡が癒えない中､10 月に発生した 100 年または 1000 年に一度と言われる予想出来ない台風 19 号、21 号による記録的な大雨により、13 都県の 27 の河川が氾濫し、堤防が決壊し、各所に大規模な浸水により甚大な被害が発生しました。
殊に 10 月は、暑さも雨も記録的な災害の月でありました。

死者、行方不明 100 名余の犠牲者と、農水関係の被害は 1, 7 00 億円余と言われ秋の収穫を前にして大きな痛手となりました。
災害大国と言われる中で自然の巨大な力の前に、なすすべもなく手をつけることも出来ず、増水した独流により培ってきた大切なものが流されていく様は、水害大国と言われる由縁かも知れません。
次から次と痛みつける災害を恨めしく思います。
特に風水害に対する備えが充分になされていたのか、山体崩落等を含め治山治水についても改めて考えて行かなければならない問題と考えます。
台風 19 号の被災地では朝夕と厳しい冷え込みの季節を迎える中、その後の台風 21 号の低気圧による大雨は、水害の痛手から立ち上がろうとする被災地を襲い、再び浸水水害に遭われ泥水の片付けに追われている姿に言葉のかけようもありません。
10 月下旬、2 泊 3 日で長野（郷里）の被災地に行って来ました。
増水時の恐怖が忘れられない中、浸水した床下の汚泥の堆積は目を覆うものであり、除去作業の困難さと、その後の対応（消毒、乾燥）は、これから迎える寒さの中を思う時、言葉では表せないものを感じました。

栄村役場提供

地震の予知は困難と言われる中、風水害については事前の予知が可能であると言われておりましたが、今回の大雨は現在の予報技術を超えたものであると言われており、今後、予想される気象変動による大雨に対する予報の難しさを知らされました。

台風 19 号は、非常災害と激甚災害に指定され、住宅の修理費等を特例として、国費で支援されることになり、被災者への復旧への大きな励みとなりましたことを、大変嬉しく思います。

被災地の 13 都県で約 4,000 余名の方々（10 月 30 日時点）が、避難生活を送っております。冷え込みが強まる中、仕切りのない体育館の床の上の生活を強いられております。

地震と違い、大雨による被害は、地域全体が浸水となり、全ての物が瞬く間に水浸しになり、持ち出すことも出来ない事態となります。

事前の対応の難しさもありますが、非常時の持ち出し品、備蓄品につきましても考え行かなければなりません。今回、浸水想定外での被害が相次ぎましたことを参考にして、改めてハザードマップを含めて見直しをして行くことが大切であります。

地震時と異なり風水害の避難の在り方について、それぞれの避難所への経路について改めて家族と話し合い確認をしておくことが求められます。

避難経路の確認については、周辺の確認も大切でありますが、電柱の地中化が遅れている中で頭上の（断線、落下による感電事故）ことも含め、確認をするようにして行かなければなりません。

（参考文献：朝日，共同、常葉大学小村研究室、大井岳男事務所、気象庁、栄村）

文　責:防災士・　保坂　松男

## ① 今後の出前講座の予定

| No | 主催者 | 講座名 | 演　　題 | 開催場所 | 開催日時 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 名古屋市社会福祉協議会 | 防災研修 | 福祉施設・事業所における防災体制と災害対策 | 名古屋市医師会館 6 階講堂（89 名） | 令和２年 1 月 19 日（金） 10:00～16:00 |

防災士必須講座のご案内

# 名古屋地方気象台講座

## １．　名古屋地方気象台と名古屋大学減災館の見学

開催日　令和２年１月１５日（水）

日　程　　名大に駐車場がないため公共交通機関利用(自己負担)でお願いします。

集合　10：10　集合場所　地下鉄名城線・東山線　本山駅　１番出口

10：30　名古屋地方気象台　見学研修

11：40　名古屋大学へ移動（バスまたは地下鉄を利用）

11：50　名大の学食で各自昼食

13：00　名大減災館へ入場

13：30　ギャラリートークを聴講

「阪神・淡路大震災から 25 年」教員　荒木裕子さん

解散　15：30　名大減災館で自由解散

## ２.スキルアップ研修「地震と津波」

開催日　令和２年２月１３日　（木）　東特会館 ４階 会議室

名古屋市中村区亀島 1-11-14

電話 052-453-1881

時　間　　受付 13:00 から

講演 13:30～14:30　「地震と津波について」

講　師　　名古屋地方気象台　防災Ｇ 東海地震調査官　中村 真也 氏

参加費　　５００円（当日受付で徴収）

★　参加申し込みは

各開催日の７日前までに下記へ

お申し込みください。

NPO 法人　愛知県防災士会

研修委員長　森　千代子宛

電話・Fax:0587-66-4631

E-メール　:morichiyo@outlook.jp

～日本防災士会会員の活動理念～

第１　日本防災士会会員（以下「会員」という）は、地域防災力の向上に努め、防災協働社会の実現に寄与することを活動の基本理念とする。

第２　会員は、地域の防災活動に参画し、災害の事前対策、応急対策（復旧・復興活動を含む）等、地域の防災活動計画の策定・実施に関し、指導的役割を果たすものとする。

そのために、次の事項に積極的に取り組むものとする。

～NPO 法人　愛知県防災士会事務局からのお願い～

※参考　日本防災士会の防災士証を保有し、年会費（５，０００を円）を新たに納入されたい方は、日本防災士会のホームページ【ＵＲＬhttp://www.bousaisikai.jp】から「入会申込書」の手続きをしていただきますようご案内いたします。

NPO 法人 愛知県防災士会
広報委員会　編纂
〒453-0013
名古屋市中村区亀島１丁目 11-14
東特会館内

JAPAN BOUSAISI SOCIETY

日本防災士会